

【1】 次の文は、中学校学習指導要領解説（平成29年7月）保健体育編〔保健分野〕（1）健康な生活と疾病の予防についての記述である。文中の（ア）と（イ）にあてはまる適切なものを①～⑥から選び、番号で答えよ。

ア 生活習慣病の予防

生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることを、例えば、心臓病、脳血管疾患、（ア）などを適宜取り上げ理解できるようにする。

イ がんの予防

がんは、異常な細胞である（イ）が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

- ① う歯 ② 糖尿病 ③ 歯周病 ④ キラー細胞
⑤ iPS細胞 ⑥ がん細胞

(ア)	(イ)
1	2

【2】 次の文は、小学校学習指導要領解説（平成29年7月）体育編G保健〔第5学年及び第6学年の内容〕（3）病気の予防についての記述である。病気の予防について理解する内容として、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こること。
② 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
③ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な睡眠、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
④ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。
⑤ 地域では、保健に関わる様々な活動が行われていること。

3

【3】 次の文は文部科学省による平成30年度学校保健統計 調査結果の概要に関する記述である。適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 身長や体重は、おおむね横ばい傾向であるが、肥満傾向児の出現率は、昭和52年度以降、増加傾向が続いている。
- ② むし菌の子供の割合は、すべての学校段階で前年度より減少しており、中学校及び高等学校においては過去最低である。
- ③ ぜん息の子供の割合は、平成22～25年度にピークを迎えた後はおおむね減少傾向にある。
- ④ 裸眼視力1.0未満の子供の割合は、小学校と高等学校では過去最高となり、中学校でも過去最高だった前年度と同程度の高い割合となっている。
- ⑤ アトピー性皮膚炎の子供の割合は、幼稚園では増加しているが、小学校、中学校及び高等学校では減少している。

4	5
---	---

【4】 次の文は学校保健安全法に関する記述である。(ア)～(ウ)にあてはまる適切なものを①～⑧から選び、番号で答えよ。

第13条 学校においては、毎学年（ア）に、児童生徒等の健康診断を行わなければならない。

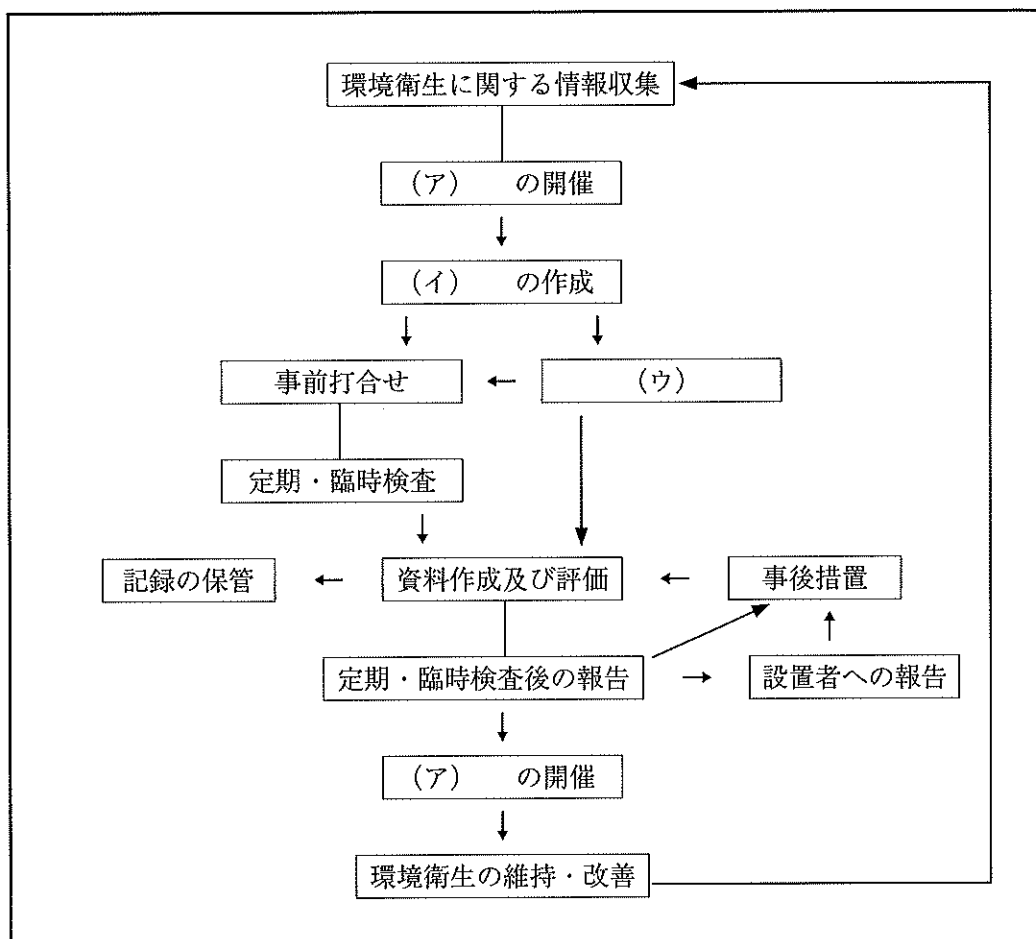
2 学校においては、必要があるときは、（イ）に、児童生徒等の健康診断を行うものとする。

第14条 学校においては、前条の健康診断の結果に基づき、疾病の（ウ）を行い、又は治療を指示し、並びに運動及び作業を軽減する等適切な措置をとらなければならない。

- ① 末まで ② 定期 ③ 臨時 ④ 迅速 ⑤ 適切
- ⑥ 調査 ⑦ 情報発信 ⑧ 予防処置

(ア)	(イ)	(ウ)
6	7	8

【5】 次の図は、学校環境衛生活動の進め方の一例である。(ア)～(ウ) にあてはまる適切なものを①～⑧から選び、番号で答えよ。



参考資料：学校環境衛生管理マニュアル〔平成30年度改訂版〕

- ① 学校保健計画 ② 学校生活管理指導表 ③ 指導案 ④ 事例検討会
 ⑤ 学校保健委員会 ⑥ 日常点検 ⑦ 安全指導 ⑧ 健康診断

(ア)	(イ)	(ウ)
9	10	11

【6】 次の文は、腎臓と尿に関する記述である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる適切なものを①～⑨から選び、番号で答えよ。

尿を作る腎臓の機能単位を(ア)という。(ア)は、腎小体と尿細管を合わせたものであり、片方の腎臓に約100万個ある。腎小体は、(イ)とボウマン嚢から構成される。

タンパク尿に起因する血漿タンパク質の減少を(ウ)という。慢性腎不全では(ア)が徐々に壊死して数が減少する。

- ① コルチ器 ② 腎盂 ③ ネフローゼ症候群
- ④ 糸球体 ⑤ ネフロン ⑥ 膀胱
- ⑦ 代謝性アシドーシ ⑧ 腎性貧血 ⑨ 急性腎炎

(ア)	(イ)	(ウ)
12	13	14

【7】 次の結核に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 世界では、総人口の約4分の1が既に結核に感染しており、死亡原因トップ10のひとつである。そのため、結核のない世界の実現に向けて、世界的な取り組みが進められている。
- ② 結核は、明治時代から昭和20年代までは「国民病」「亡国病」と恐れられ、50年前までは死亡原因の第1位だった。医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になったが、「結核の統計2017」(公益財団法人結核予防会)によると、日本では今でも1日に50人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている重大な感染症である。
- ③ 結核菌は空気感染しない。結核に感染しても必ずしも発病するわけではなく、通常は免疫力により結核菌の増殖が抑えられ、休眠状態になる。数年から数十年後、結核菌が復活し、免疫力が弱まると発病する。
- ④ 抵抗力の弱い赤ちゃんは、結核に感染すると重症になりやすく、生命を危うくすることがある。予防にはBCG接種が有効であり、国が示す標準的予防接種期間は、生後5～8か月である。
- ⑤ 「結核の統計2017」(公益財団法人結核予防会)によると、日本の結核は、世界の中では中蔓延国である。日本で新たに結核と診断された人のうち65歳以上が7割近くを占める。

【8】 次の心臓病に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 生まれつきの心臓病である先天性心疾患は、出生1000人に対して8～10人発生する。
- ② 先天性心疾患の中でもっとも多いのは、心房中隔欠損症である。
- ③ ファロー四徴症とは、大動脈と肺動脈の間に交通路（動脈管）が存在する病気である。
- ④ 心電図のQRS波の始まりに特徴的な波（デルタ波）を認めるものをWPW症候群という。
- ⑤ 後天性心疾患としてもっとも多くみられるのは、川崎病による心臓後遺症である。

16	17
----	----

【9】 次の文は、人間の体に関する記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを①～⑨から選び、番号で答えよ。

頭部・頸部・胸部・腹部などからだの主要部分を（ア）、（ア）から枝のように突き出た部分を体肢という。体肢は上下1対ずつあり、上部の体肢を上肢、下部の体肢を下肢という。自由上肢骨は、上腕の骨である上腕骨、前腕の骨である橈骨・（イ）、手の骨である手根骨・中手骨・指骨に区分される。上腕骨は上端では（ウ）と肩関節をつくり、下端では橈骨・（イ）と肘関節をつくる。

- ① 肩甲骨 ② 上体 ③ 体幹 ④ 舟状骨
- ⑤ 骨格 ⑥ 上腕 ⑦ 尺骨 ⑧ 鎖骨 ⑨ 腓骨

（ア）	（イ）	（ウ）
18	19	20

【10】 次の児童生徒等の健康診断における四肢の検査に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 現代の子供たちには、過剰な運動に関わる問題や運動が不足していることに関わる問題など、運動器に関する様々な問題が増加していることが指摘されており、これらに対応するために四肢の検査を行う。
- ② 四肢の状態等については、入室時の姿勢・歩行の状態に注意を払い、伝えられた保健調査でのチェックの有無等により、必要に応じて、検査を行う。
- ③ 肩関節の可動性は正面より観察して、児童生徒等の両肘関節を伸展させた状態で上肢を前方挙上させて異常の有無を検査する。上腕が耳につくか否かに注意する。
- ④ 野球肘では、腕を伸ばすと、片方だけまっすぐに伸びなかったり、最後まで曲げられなかったりする。
- ⑤ 成長期においては関節軟骨が成人より豊富かつ未熟であり、外傷や繰り返される負荷によって障害を受けやすい。

21

【11】 次の児童生徒等の健康診断についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 視力の検査において、視標の掲示は、字ひとつ視力表にあつては被検査者の目の高さとし、字づまり視力表にあつては視標1.0を被検査者の目の高さにする。
- ② 視力の検査において、視力表の照度の標準は、おおむね100ルクスから400ルクスとする。
- ③ 身長測定において、被検査者の頭部を正位に保たせるには、被検査者の頭を正面に向かせて眼耳線が水平になるようにする。
- ④ 慢性腎炎は初期には無症状で経過し、放置されると将来腎不全に移行することが知られており、学校検尿で、早期に発見されることが多く見られる。
- ⑤ 検尿において、正しい採尿は、就寝前に排尿をさせ、翌朝一番尿を出始めから10ml程度採尿する。

22	23
----	----

【12】 次の学校における健康診断の目的と役割についての記述のうち、下線部が適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

学校保健安全法では、学校における児童生徒等の健康の保持増進を図るため、①学校における保健管理について定めており、学校における健康診断は、この中核に位置する。また、学習指導要領解説特別活動編において健康安全・体育的行事として例示されており、②教育活動として実施されるという一面も持っている。このことから学校における健康診断は、③家庭における健康観察を踏まえて、学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて④疾病を診断し、健康状態を把握するという役割と、学校における健康課題を明らかにして⑤健康教育に役立てるという、大きく二つの役割がある。

24

【13】 次の文は、学校において予防すべき感染症第二種に規定されている麻しんに関する説明である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる適切なものを①～⑨から選び、番号で答えよ。

麻しんは、(ア) するため、学校などの集団の場合では、1名が発症した場合、速やかに発症者周辺の児童生徒、教職員等の予防接種歴・り患歴を確認し、迅速に感染拡大防止策をとる。未接種あるいは1回接種、接種歴不明の場合、患者との接触後、(イ) 以内であればワクチンにて発症の阻止、あるいは症状の軽減が期待できる。ワクチン接種不相当者の場合は、(ウ) 以内であれば免疫グロブリン製剤の投与にて症状の軽減が期待できるが、血液製剤であることに考慮する必要がある。

- ① 血液感染 ② 空気感染 ③ 反復感染 ④ 72時間 ⑤ 1週間
⑥ 2週間 ⑦ 6日 ⑧ 10日 ⑨ 1か月

(ア)	(イ)	(ウ)
25	26	27

【14】 次の学校保健安全法で定められている「学校において予防すべき感染症」についての記述のうち、適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 第一種の感染症は、感染症法の一類感染症と結核を除く二類感染症を規定している。第一種の感染症の出席停止期間の基準は、「治癒するまで」である。
- ② 就学時の健康診断で確認すべき定期の予防接種の対象は、インフルエンザ菌b型感染症、肺炎球菌感染症、ポリオ、BCG、百日咳、ジフテリア、破傷風、麻しん、風しん、流行性耳下腺炎、日本脳炎である。
- ③ 第二種の感染症の各出席停止期間の算定の考え方は、「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という現象が見られた日の当日を第1日として算定する。
- ④ 百日咳の症状は、病初期から、連続して止まらない咳が特徴で、発熱することは少ない。昼間に咳がひどくなる。
- ⑤ インフルエンザの感染期間は発熱1日後から3日目をピークとし7日目頃まで続く。

【15】 次の文は、アレルギー疾患に関する記述である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる適切なものを①～⑩から選び、番号で答えよ。

（１） 運動中に気管支ぜん息の急性発作が起きた場合の対処法

- （i）ただちに運動を休止させる。
- （ii）症状が強かったり改善しなければ急性発作治療薬を使用させる。
- （iii）（ア）をとらせ、何かによりかからせる。背中を静かにさすってやる。
- （iv）（イ）などで呼吸を整えさせる。

（２） 食物アレルギー及びアナフィラキシーを発症した場合、その症状に応じた適切な対応をとることが求められる。発症に備えて医薬品が処方されている場合には、その使用を含めた対応を考える。

アドレナリン自己注射薬は、アナフィラキシーを起こす危険性が高く、万一の場合に直ちに医療機関での治療が受けられない状況下にいる者に対し、事前に医師が処方する自己注射薬である。

アドレナリン自己注射薬は医療機関外での一時的な（ウ）であるから、万一、アドレナリン自己注射薬が必要な状態になり使用した後は速やかに医療期間を受診しなければならない。

投与のタイミングとしては、アナフィラキシーショック症状が（エ）に注射するのが効果的であるとされている。

- ① 進行する前 ② 進行して5分経過後 ③ 完全に治まった後 ④ 胸式呼吸
- ⑤ 腹式呼吸 ⑥ 仰臥位 ⑦ 伏臥位 ⑧ 起座位
- ⑨ 抗ヒスタミン薬 ⑩ 緊急補助治療薬

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
29	30	31	32

【16】 次の文は、学校保健計画に関する記述である。(ア)～(ウ) にあてはまる適切なものを①～⑦から選び、番号で答えよ。

- (1) 学校保健計画には、法律で規定された「児童生徒等及び職員の健康診断」、「(ア)」、「児童生徒等に対する指導」に関する事項を必ず盛り込むこととすること。
- (2) 学校保健に関する取組を進めるに当たっては、学校のみならず、(イ) や関係機関・関係団体等と連携協力を図っていくことが重要であることから、(ウ) 法等において学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとされていることも踏まえ、学校保健計画の内容については原則として(イ)等の関係者に周知を図ることとすること。このことは学校安全計画についても同様であること。

- ① 学校保健安全 ② 学校教育 ③ 環境衛生検査 ④ 地域
 ⑤ 保護者 ⑥ 教育委員会 ⑦ 児童生徒等に関するメンタルヘルス

(ア)	(イ)	(ウ)
33	34	35

【17】 次の児童虐待に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 児童虐待の種類は主に「身体的虐待」「性的虐待」「ネグレクト」「心理的虐待」の4つに分類される。
- ② 疑わしい外傷を見た場合は、児童虐待防止法第6条に基づき、虐待が疑われた時点で速やかに、市町村若しくは児童相談所等に通告することが求められる。
- ③ 子供の受傷原因が不明確で、保護者に確認しなければならない場合、保護者に受傷原因を聞く前に「お子さんは〇〇とっていました。」と保護者に伝えることや、保護者と子供が同席している場で尋ねるようなことは避ける。
- ④ 性的な被害体験を子供から告白(相談)されたときの留意点として、「他の誰にも言わない」や「親には言わないから」という約束を子供とした場合は、必ず守る。
- ⑤ 子供のあざや外傷の痕跡などによって児童虐待が疑われる子供を発見したときに、身近にいる連携すべき専門家は学校医や学校歯科医である。養護教諭による所見の記載はもちろん、医師による助言や指導なども大切となる。

36

【18】 次の記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 中教審答申（平成20年1月）において、養護教諭の職務は「保健管理」「保健教育」「安全管理」「保健組織活動」「保健室経営」の5項目に整理された。
- ② 保健主事は、学校保健と学校全体の活動に関する調整や学校保健計画の作成、学校保健に関する組織活動の推進など学校保健に関する事項の管理に当たる職員である。
- ③ ノロウイルスが付いた食器は、熱湯（1分以上）や0.05～0.1%次亜塩素酸ナトリウムを用いて洗浄することが勧められる。
- ④ 学校において児童生徒等の健康診断を行ったときは、21日以内にその結果を通知しなければならない。
- ⑤ 保健室経営計画は、単年度の計画であることから、その年度内で実施可能な内容とし、同時に評価計画を立てることが必要である。

37

【19】 次の学校保健委員会についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 学校の組織・児童生徒・教職員・保護者・地域の関係機関・地域住民等すべてを巻き込むことができ、ダイナミックな活動を展開することができる。
- ② 児童生徒を参画させることによって、児童生徒主体の健康教育を推進することができる。
- ③ 地域の他の学校（小学校・中学校・高等学校）との交流を通して、地域レベルで健康課題の解決に向けて協力し合うことができる（地域学校保健委員会）。
- ④ 学校・家庭・地域社会と連携していくことで、複雑・多様化した児童生徒の心身の健康課題の解決に向けて効果的な取組ができる。
- ⑤ 学校における心身の健康問題を研究協議し、健康づくりを推進する組織であり、実践化よりも意見交換を主体に行うものである。

38

【20】 次の事例を読み、文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを①～⑩から選び、番号で答えよ。

中学2年生男子。両親が離婚したために父親が家事をしている。最近、遅刻が増えており、登校しても教室へは行かずに、体調不良を訴えて保健室に来室することが多くなった。顔色も悪く元気もないことから養護教諭も心配していたところ、職員会議で生徒指導主事より、学外で夜遊びをしているとの報告があった。

養護教諭は、生徒が保健室に来室したときに家での様子を聞くと、生徒は両親の離婚について詳しく知らされておらず、不安で落ち着かない気持ちを紛らわすために、夜間外出や外泊をしていた。そのため、不規則な生活となり体調不良を起こして保健室の来室が増えていることが分かった。

（1） 両親の離婚に当たり、子供が精神的に不安定になり、寂しさから問題行動へと向かう場合も多い。保護者に精神的な余裕がなく、子供の行動を黙認すると問題行動が更に深刻化する。両親の離婚は、時として子供に大きな影響を与えることがあるため、学級担任、養護教諭等は生徒の健康観察を強化し、変化に早期に気づき、関係者が子供を支援していくことが大切である。

学校生活全般を通じて行う健康観察については、「体に現れるサイン」「（ア）に現れるサイン」「対人関係に現れるサイン」の3つの視点で子供の健康状態を把握する必要がある。

（2） 養護教諭は、生徒が保健室に来室したときには、時間をとって生徒の訴えをよく聞き、心の安定を図れるように努め、精神的な安定を図るためにストレスへの対処方法や、気持ちのコントロール方法について一緒に話し合うことも大切である。

ストレスへの対処法の例として、身体的緊張を解き、不快な体験が心理的な問題を引き起こすという悪循環を断ち切るための取組には（イ）があり、実施例として（ウ）法がある。

（ウ）法手順

1. 椅子にゆったり腰かける。
2. 口を閉じて、鼻から静かに息を吸う。
3. 吐くときは、口を小さく開いて、息をそっとゆっくり長く吐き切る。

- ① 表情 ② プライマリケア ③ カウンセリング
④ リラクゼーション ⑤ 生活習慣 ⑥ 呼吸
⑦ 行動や態度 ⑧ 筋弛緩 ⑨ 学力 ⑩ ストレッチ

（ア）	（イ）	（ウ）
39	40	41

【21】 次の急性虫垂炎を疑う保健室来室児童の事例を読み、次の問いに答えよ。

小学4年生女子。腹痛を訴えて保健室来室。前日の夕方から食欲低下が出現。朝になると心窩部の痛みに気付いたが、そのうち治まると思って登校。昼頃に吐き気が出現し、おう吐。排便は軟便が2回。だんだん右下腹部が痛くなり、歩くと腹部に響くため、前かがみで歩いている。保健室ではベッドで横になり、右を下にしてじっとしている。

検温→37.2℃

(1) 次の腹部触診の手技に関する記述のうち、適切なものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 腹部の触診は、必ずベッドまたは診察台の上に仰臥させて行う。その際、枕をあてがい、膝を立てさせ、衣服を広げて腹壁を露出させる。
- ② 養護教諭は、児童の左側に立って、右手を伸ばして腹壁の上に置く。冷たい手で急に触れると腹筋を緊張させるので、温かい掌で軽くおさえる。
- ③ 痛い所を自分で指ささせ、痛い所を押さえる。腹壁をおさえた時に痛みを感じるか、また自発痛の位置と一致するかを調べる。
- ④ 急性虫垂炎を疑った場合は、腰骨の出っ張った部分（上前腸骨棘）と臍を結ぶ直線の、内から1/3の点にあるマクバーニーの圧痛点を探す。
- ⑤ 前かがみで歩くのは、腹部への振動を避けるため、腹膜刺激徴候の存在を疑う。腹膜刺激徴候を確認する方法として、かかと落とし試験や咳嗽試験がある。

42

43

(2) 次の腹痛に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 保健室で腹痛を訴える者を見たとき、まず考えなければならないのは急性虫垂炎、心因性腹痛、便意腹痛の3つである。この中で日常遭遇することの最も多いものは、便意腹痛である。
- ② 心因性腹痛の場合は、自発痛があるという部位をおさえても、別に圧痛もないし、かえって気持ちがよいなどと答えることもある。
- ③ 腹痛時の自発痛・圧痛の位置については、心因性の場合は中央の臍部に痛みを訴えることが多いが、器質性の場合はむしろ周辺部である。
- ④ 腹部は身体の中で、横隔膜直下から骨盤底までの臓器が含まれるため、その臓器の位置を念頭に、問診や触診でその臓器を推測し、状態を判断する必要がある。
- ⑤ 急性虫垂炎の疑いがある場合は、冷やすことは炎症症状を促進させ、穿孔を誘発するので、絶対に冷やしてはいけない。

44

